青年の「学び」の場を求めて

――高校生に職業や専門の学習を保障しよう――

和光中学・高校　森　下　一　期

1．和光高校のカリキュラム改革

和光高校の新カリキュラムは1994年度から年度進行で進められ、今年度が完成年度となります。このカリキュラム改革を進めるにあたって掲げた学校像は「準義務教育化した大衆的高等学校」の創造です。つまり、90数％の子どもたちが高等学校で学ぶようになっている現実を直視し、その子どもたちを受け入れている現在の高等学校が偏差値的な学力で序列化されていることに対置する学校像を提起したいと考えたわけです。幸い、和光高校は幼小中を擁する学園の一員として、原則的に内進者を受け入れてきています。したがって、学力的にも資質の面でも多様な子どもたちを抱えています。多様な子どもたちが相互に働きかけ合い、影響し合って、学び合って成長する場こそ、教育の場であるととらえ、そういった学校をめざしているといえます。

このような学校像から導かれるカリキュラムの基本的な構造は、共通学習の絞り込みと選択学習の充実という言葉で表されるものです。和光高校は二十数年前から選択授業については先進的な取り組みをしてきており、今回のカリキュラム改革でも更に充実をさせていきますが、あわせて、内容面での検討も進めることとなりました。それは、高等学校で生徒たちは何を学ぶのか、という問題です。本来、青年期といわれる時期には、市民としての教養を豊かにするとともに、自分の将来の仕事・職業を選択できる力を培うときではないでしょうか。戦後の新制高等学校の誕生の過程で深められた課題です。その結果、学校教育法は高等学校の目的に「高等普通教育及び専門教育を」施すと、専門教育も普通教育とあわせて行うべきであると規定しています。しかし、現実には普通科高校においては、専門あるいは職業に関わる教育はきわめてまれにしか行われていません。職業高校では普通教育科目が必履修とされており、専門教育科目の必履修単位数も決められていますが、普通科においては専門教育科目の必修化、もしくは選択できる専門科目を必設することは定められていません。そして、現実は普通科高校の設置科目は普通教育教科で占められています。この問題に切り込むことが今回のカリキュラム改革の柱の一つでした。

このような問題意識にたって、「専門教育科目」を設置することを具体的課題として取り組んできました。

前述したように、和光高校では青年期の教育として『進路選択できる力』を育てるという目標も明確にしました。そのような力とは何か未だ十分深めてはいませんが、少なくとも従来抜け落ちていた職業・専門分野について知る場を設けることは不可欠

です。とはいえ、和光高校の現実を見るなら、卒業後すぐ職業に就くものはほとんどいません。就きたい職業がはっきりしていても、専門学校等での学習を継続する場合が多いといえます。その一方で、大学への進学希望者も多くいます。このような場合の職業・専門に関する教育はどうあるべきかが検討の課題となります。

専門学校で学ぶにせよ、大学で学ぶにせよ、自分が目指すものについての具体的な像が描けているかどうか。その前に、目指すものをはっきりつかんでいるかどうかが問題です。その目指すものを具体像をもってつかみ取ることが出来るような場としてこの専門教育科目群を考えようとしました。つまり、即、職業に就くために必要な知識・技能を付与する、というよりも、その分野の知識・技能の学習を通して、その職業についての具体的像をつかむ場としたらどうかと考えたわけです。短大なり、大学卒業でなければ資格を得られない分野についても、その基本を学ぶことが考えられます。つまり、自分がたずさわるかもしれない職業や専門分野についてのイメージを、知識や技能の学習を通して得ることのできる場という特徴をもたせた選択枠を設けたいと考えたわけです。

2．一学期間実施して

「専門教育科目」の第一年度は次の11科目を開設しました。ルポルタージュ論（非常勤講師）／図書館・博物館（司書教諭）／スポーツコーチング演習（専任教諭）／インテリアデザイン（非常勤講師）／専門調理演習（専任教諭）／インターネットコミュニケーション（専任教諭）／コンピュータ制御（中学専任）／保育・教育（幼稚園園長）／カウンセリング（非常勤講師）／映像（社会人講師）／マーケッティング（専任教諭）／福祉・ボランティア（非常勤講師）／マスコミ・マスコミ論（社会人講師）。

まだ、開設早々であるため、すべての科目について検討するには至っていません。とりあえずは、和光の専任の教師の担当した科目について生徒のアンケートも行い、生徒にとってどのような学びの場になっているか調べてみました。

その結果は次ページのようなものでした。この科目群は3年生の必修選択枠として設定していますから、約240名が上記の11科目のどれかを受講しています。その中の75名のアンケート結果ですから十分とはいえませんが、生徒の約半数は設置の意図である「職業」を意識してくれています。また、将来の進路や職業観に1／3ほどの生徒が影響を受けていると答えています。未だ、3ヶ月しか授業をしていない段階ですが、この授業の目指すところは、それなりに生徒に受け入れられているのではないかと思います。

ところで、このアンケートでは、必修選択として設けているこの「専門教育科目」について、どう考えているかも聞いてみました。自由選択の方がよいと反応するのかと思っていましたら、45%の生徒が必修選択の方がよいと答えています。理由を明記するようしていなかったので、十分とらえ切れませんが、誰しも職業や専門に関することの何かを学ぶべきだと考えていると判断するのは読み込みしすぎでしょうか。

	回収数	1「職業」をイメージした講座と		2 どちらがよいか		3 自分の将来や職業観に	
		ア.実感がもてる	イ.変わらない	ア.必修選択がよい	イ.自由選択がよい	ア.広がり役だった	イ.それほどでもない
保育・教育	23人	15	8	12	11	10	13
	%	65.2	34.8	52.2	47.8	43.5	56.5
インターネットコミュニケーション	11人	5	6	4	8	3	7
	%	45.5	54.5	36.4	72.7	27.3	63.6
専門調理演習	11人	3	8	7	4	4	7
	%	27.3	72.7	63.6	36.4	36.4	63.6
図書館博物館	10人	5	4	1	9	2	7
	%	50.0	40.0	10.0	90.0	20.0	70.0
スポーツコーチング演習	11人	5	6	7	4	1	9
	%	45.5	54.5	63.6	36.4	9.1	81.8
マーケッティング	9人	3	5	3	6	1	8
	%	33.3	55.6	33.3	66.7	11.1	88.9
合計	75人	36	37	34	42	21	51
	%	48.0	49.3	45.3	56.0	28.0	68.0

3．「保育・教育」で学んでいるもの

上記の表で特徴的なことは、「保育・教育」を受講している生徒の65％が、「職業」をイメージし、44％の生徒が自分の進路や職業観に影響を受けていると答えていることです。この科目を受講した生徒たちの声を紹介しておきましょう。

・じかに幼稚園の先生の視点からの話を聞いているわけだし、幼稚園に行ってじかに子どもとふれ合ったりしているから。
・本格的な知識が出てくる。相手（受けて？客？）の事をとてもよく考えさせられた
・実際幼稚園に行くことができたし、普通の授業ではできないようなことをしている。
・教育とか、人と人の関係や自分と相手の関係を考えるようになった。
・幼児の心理と行動。これほど相手側の事を考えているとは思わなかった（園児に対しても）
・もっと子どもと接したいし、保母などの方向へ進むとしたらどのような勉強をしたらよいかなど教えてほしい。
・和光の教師もＣ１の時の授業態度を見に来るべきだと思う。その方が違いがわかる。

このように、生徒たちは子どもに接したこと、それも教えるものの視点に立って能動的に関わったことが、自らの進路や職業観を考える上で貴重な経験となったことを語っています。青年が「学ぶ」上で必要なことはこういった「参加」の場が保障されることではないかと改めて確認できたように思います。

最後に、この「保育・教育」の授業で保

育実習をした生徒の記録をいくつか紹介します。

3－2　T．Y

何だか物珍しい生き物を見ているかのようだった。けど、しだいにうちとけてきたのか、二つ三つ質問してくるようになり、少しずつ話をするようになった。

子どもたちは好奇心がおうせいで、一人が近づいてくると皆もその後についてきた。

特別に気になった子が二人いて、一人は何だか乱暴な子だった。僕の手をひっぱたり、たたいたり、けったりとやりたい放題だった。が、もう一人は僕が数人に囲まれてやられていると、それを止めてくれる子どもがいた。

子どもも一人の人間であり、皆それぞれ違った性格で、とても当たり前のことだけど、とても面白いことだった。また、いつか出来るのであれば子どもたちと遊んでみたい。まだしゃべる機会のなかった子どもたちとも仲良くなりたい。皆、お昼の時に弁当を食べるとき、上手にはしを使えていたと思う。

3－6　K．K

・子どもの心はつかみにくいと思いました。
・人見知りをしない子どもたちは、かまってもらうのが大好きなので、すぐになじむことは可能だけど、そこの限度をみきわめることがとても難しく、いきすぎれば髪の毛や服をぐちゃぐちゃにされてしまうので、その点は経験だと思いました。
・帰る間際に歌をうたいはじめたら、それまで騒いでいた子たちもうたいはじめ、みんなが一つのことをやったので驚いた。
・もの珍しいことや人がくるとみんなではしゃぐ無邪気な子どもが多い。
・子どもに物事を話し、接するときは、腰を落とすことが大切なことのように感じた。藤田梢さんはそれをやっていてすごいと思った。
・もう一度きたいと思いました。

3－5　E．K

まず、はじめにお弁当を食べているとき、積極的に話しかけてくる子と、話だけは聞いている子、全く一人の世界の子と、性格がはっきり出ているなと思った。

前に私が行った保育園では、歩き回る子がいたり、お弁当をほしがる子がいたり大変だったけど、このクラスの子たちは、落ち着いていて、さすが年長さんだなと思った。後は、一人の先生に3～4人の子が一気に話しかけるといったこともあまりなく、ちゃんと順番をまってお話しできてるなと思った。班のリーダーさんや、当番さんもちゃんと仕事をしていて、もしかしたら私たちよりも大人かも……。

遊びの場では、ボールを独り占めする子や、手を出す子なども見られたけれど、「サッカー入れて」「いいよ」などという会話もきけて、ルールを守っている子がほとんどだと思った。ボールの取り合いになってもめても、少したったらもう忘れている様子で、笑いあって遊べるなんて、子どもならではのいいところだと思った。

☆あきらくんはとってもクールで、はじめ5回に1回ぐらいしか答えてくれなかったけれど、あとでサッカーの話を出したら、あきらくんの方から「8対2で勝ったの」と答えてくれて、本当にサッカー好きなんだと思った。